

令和4年度第2回中野区総合教育会議

- 1 日 時 令和4年11月4日（金） 開会：11時00分
閉会：11時57分
- 2 場 所 区役所7階第8・9会議室
- 3 出席者 (構成員)
酒井区長、入野教育長、伊藤教育委員、岡本教育委員、村杉教育委員、
田中教育委員
(関係職員)
青山副区長、横山副区長、企画部長、総務部長、子ども教育部長・教育
委員会事務局次長、子ども教育部子ども家庭支援担当部長・教育委員会
事務局参事（子ども家庭支援担当）、総務部総務課長、子ども教育部・
教育委員会事務局子ども・教育政策課長、教育委員会事務局指導室長、
区民部文化国際交流担当課長
(事務局)
総務部総務課職員
- 4 議 題 中野区教育大綱の改定について
- 5 傍聴人数 5人

6 議事経過

【午前11時00分開会】

[総務部長]

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第2回中野区総合教育会議を開催いたします。

教育委員の皆様には、お忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。

前回の総合教育会議は、本年7月に、中野区教育大綱の改定に向けまして、教育大綱に盛り込む内容を議題とし、基本理念及び方針についてご議論いただいたところでございます。本日は、中野区教育大綱の改定素案を提示させていただきまして、ご意見を頂戴したいと考えております。

それでは早速、協議事項に入っております。進行といたしましては、別紙資料の「総合教育会議・区民と区長のタウンミーティングでの主な意見」について、企画部長から説明の後、質疑応答の時間をとらせていただきます。次に、「中野区教育大綱（改定素案）について（案）」について企画部長から説明の後、この改定素案についてのご協議をいただきたいと考えております。

それでは、まず別紙資料について企画部長から説明をいたします。

[企画部長]

それでは、私から資料の説明をさせていただきたいと思っております。

まず初めに、前回の総合教育会議の資料が付いてございます。今回提示させていただいた案と対比をする上でご活用いただければと思っております。

次に「前回の総合教育会議」というページがございます。そちらで前回会議での議論を何点かご紹介したいと思います。まず、基本理念では、「一人も取り残さない」というところがうまく表現がされているといったご意見をいただいております。また、「自分らしく学べる」という表現は、健康な子ども、大人、あるいは障害のある子どもなど、だれが読んでも納得ができるというご意見もいただいたところでございます。

次に、方針につきましては、方針1では、誰もが「自分らしく」学べる教育の推進という案をお示しましたが、この中で「全員が参加する」という表現が強制的であるというような感じがあり、「自分らしく」ですとか、「参加できる」といったほうがよいのではないか、このような意見がございました。

方針2、「中野らしさ」をいかした教育を推進するという点では、教員や地域の人々も、子どもたちとともに学び合えるというような方向性で検討を進めてほしいといったご意見がございました。

方針3、「学びの環境を整備する」のところでは、地域の方々の健やかな生活を支えるという意味では、文化・芸術に加え、「スポーツ」という言葉を含めたほうがよいのではないかと意見があったところでございます。

次のページに移ります。その後、8月24日に区民と区長のタウンミーティングを開催いたしました。こちらは非常に多くの方々に参加していただきまして、ワークショップ形式で開催したものでございます。グループに分かれて、中野の教育ということテーマにしてディスカッションを行って、その後にそれぞれのグループで発表していただいたというものです。その際に区長からもコメントをするというようなスタイルでタウンミーティングを行いました。この中でも様々なご意見をいただきましたので、幾つかご紹介したいと思います。

まず、大綱の理念には、時代の変化を捉えるような表現を入れたほうがよいのではないかと、また、子どもたちだけでなく、全ての区民が関係する社会教育や生涯学習を充実させてほしい、そういった意見もございました。それから、年齢、国籍、性のあり方及び障害の有無にかかわらず、相互理解・多様性が尊重されることが重要である。また、新型コロナウイルス感染症によって失った、学校、家庭及び地域のつながりを取り戻す必要があるといったご意見がありました。このような様々なご意見をいただき、非常に活発な議論があったということでご報告させていただきます。

こうした前回の総合教育会議、またタウンミーティングでの議論を踏まえまして、今回、教育大綱の改定素案をお示しさせていただきます。

今回の教育大綱の構成でございますが、まず「はじめに」で全体の概要をお示ししまして、その後に「基本理念」、それと「方針」ということで、大きく3つの枠組みとしております。

できるだけ皆さんにわかりやすく、そこから中野の教育を皆さんで語れるよう、できるだけシンプルにしたいということで、このような構成としてございます。

詳しくご説明したいと思います。まず、「はじめに」というところでは、教育大綱の目的そのものになりますけれども、はじめの大きなくりの1つ目では、時代の変化ということに記載しております。これは先ほどタウンミーティングでの意見にもございましたけれども、昨今の新型コロナウイルス感染症による生活や教育への影響、こういったことへの懸念

を示し、また、世界的な課題といったものについても捉えながら、教育を進めるべきではないかということで、まず時代の変化について記載しております。

それから、大きなくくりの2つ目です。ここでは、中野区の多様性といったもの、また、社会教育や生涯学習など、様々な世代の人たちが教育に関わっているということ表現したものでございます。

それから、大きなくくりの3つ目では、区の基本的な理念「誰一人取り残されることのない、安心できる地域社会を実現していく」、これはもう区共通の理念でございますのでそちらを記載しております。

そして、最後に、この教育大綱の目的として、このようなまちの実現のために、この教育大綱を、中野の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の目標や施策の根本となる方針として定める、という締めくくりをしたものでございます。

それでは、次のページにまいりまして、基本理念でございます。中野のまちの強みを生かし、一人ひとりの「生きる力」を高めていくため、新たな中野区教育大綱では、「つながりの中で、誰もが自分らしく学べるまち なかの」を基本理念とします。その下に3つ具体的に掲げてございます。

1つが、学校や地域で、誰もが「自分らしく」学べる。それから、学びや参加の中で、人と人が「つながる」。そして、つながりの中で、「新たな活力」が生まれる。こういったことを基本理念としていきたいと考えてございます。

その次のページには、方針を3つ掲げてございます。

前回の総合教育会議の際に、順番を変えたほうがいいのではないかというご意見がございましたので、「誰もが『自分らしく』学べる教育の推進」を1つ目の方針といたしました。また、形式もシンプルに、まず方針を掲げ、そこにサブタイトルというか、その内容を表現していくような形に改めたところでございます。

方針の2つ目では、「中野らしさを生かした教育の推進」を掲げ、「～多様性と地域のつながりを強みにした教育を実現する～」というようなことで表現をしております。

それから、3つ目の方針では、「学びの環境の整備～将来にわたって学び続けられるよう、より良い教育環境を整える～」を掲げました。以上、大きな3つの枠組みによる教育大綱の改定素案といたしたいと考えているところでございます。

私から資料の説明は以上でございます。

[総務部長]

それでは、まず、「前回の教育総合会議での主な意見」と、「区民と区長のタウンミーティングの主な意見」につきまして、ご質問などがありましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

[田中委員]

今回の教育大綱の中で、「中野らしさ」ということが1つのキーワードになっていますけれども、タウンミーティングの中でも、この「中野らしさ」をいかした教育をという声が出たということです。参加された方たちがイメージしている、この「中野らしさ」というのはどんな感じだったのでしょうか。

[企画部長]

「中野らしさ」ということでは、人それぞれでございませけれども、我々が考えていた多様性ですとかそういったことで語られる方もいますし、まちの様子から庶民的なまちであるということを語られる方もいたり、本当に様々な、人それぞれの考えがあって、まさに多様性のあるまちということが表現されていたかなと思っております。

[田中委員]

ということは、我々が考えて基盤にした、この「中野らしさ」と区民の方が考えているところは、大きなずれはなかったというふうに捉えてよろしいのでしょうか。

[企画部長]

そのように考えております。

[伊藤委員]

やはりタウンミーティングについて教えていただければと思うのですが、「自ら選び決めることができる教育の場」に関連して何か議論はあったのでしょうか。また、「主体性、主権者教育の場」ということについて、どのようなことをイメージされて、ご発言されたのでしょうか。

[企画部長]

「自ら選び」ということでは、自分で選ぶということの難しさというか、それはご自身のこともあったり、環境的な観点からなかなか選ぶことが難しいというようなことが意見としてありました。自分で決めていく、自己決定していくということが大事であるというご意見でございませ。それから「主権者教育」という点では、自分には権利があるということをしっかりと意識し、主権者としての教育に取り組んでほしいというようなことが意見としてございました。

[伊藤委員]

ありがとうございます。

[総務部長]

それでは、次に「中野区教育大綱（改定素案）について（案）」につきまして、ご議論をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

[田中委員]

この基本理念はすごくすっきりとしていて、わかりやすく、いいなと感じましたが、目指しているものをもっと見えてくるとよいのではないかと思います。この学びや参加の中で人と人が「つながる」とか、つながりの中で「新たな活力」が生まれるということが、この方針の中では読み取りにくいなというのを感じたのです。例えばこの「中野らしさを生かした教育の推進」の中で、「地域とのつながりで子どもの『生きる力』が育つよう、育成などを進めます」というようなところだと一方向的で、地域と学校、子どもたちがお互いに学び合い、高め合って、地域がよくなっていくというニュアンスがもう少し強くてもいいのかなというふうに感じました。

区報の紙面に区長が書かれていたのですけれども、子どもたちが生きやすいとか参加しやすい地域は、大人にとっても参加しやすい、というふうに書かれていて、まさにそういった環境のことがここにあってもいいのかなというふうに思ったところです。

[区長]

今のこの四角の囲みの中は、区が主体として何をするのかということを書いているのですが、主体はこちらでこうやりますだけではなくて、子ども側あるいは教育を受ける側からの表現が足りないというご意見でしょうか。

[田中委員]

ここにそのことを入れてもいいと思うし、つながる中で何か生まれてくるということが受け止めやすい表現で入っていてもいいのかなと感じたのです。

[区長]

わかりました。

[伊藤委員]

毎回、こうして意見を交わす機会を与えていただいていることで、本当にわかりやすいものになってきたと思いますし、何よりこのように意見を率直に交換できる場があること、タウンミーティングなども含めまして、たくさんの方が意見を言いながらつくっていくとい

うプロセスそのものに、すごく意味があるのだなということを改めて感じております。ありがとうございます。

その上で何点か感じたのですけれども、1つは、「はじめに」のところで、前半部分、すごく現在の社会的な状況をうまく、わかりやすくまとめてくださっていると思いますし、次の段落も、中野の特徴がすごくわかりやすいと思っていいなというふうに思いながら拝読しました。

ところが、せっかく2段落目が、子どもから高齢者まで、全ての世代が地域における学びや社会活動に参加しながらつながりを築いている中野の特色を言いながら、3段落目では「子どもたちの学び」にしか焦点があたっていないので、ここは大人も入れてもいいのかなと思いました。タウンミーティングでも社会教育というようなことも出ていましたし、先ほどの田中委員のお話も含めて、お互いにみんなで学んでいくというふうな流れがとても具体的に表現されているだけに、子どもたちだけではなくて、大人も入ったほうが自然かなというふうに感じました。

[区長]

この「はじめに」は、ちょっとまだこなれていない感じがありますね。今の視点もまさにそのとおりだと思いますので、少し手を入れます。

[伊藤委員]

基本理念のところは、「まちの強みを生かし」というところから始まるのがすごくいいなと思っていて、地域の中で双方向的に学んでいく、地域の強みを生かして地域をつくっていくということが、冒頭にしっかり出ているのが、今回すごくいいなと改めて思いました。

そして、学びの中で人がつながって、新たな活力が生まれるというのが、すごくイメージしやすいと思いました。

方針の第1の囲みの中に「チャレンジする力」と書いてあるのですけれども、人とつながる中で、してもらって、感謝して、今度は自分がする側に立つという、そういう循環の中にチャレンジがあるというふうになっていくので、とても大事な哲学が理念と方針に含まれているなということを思いました。

つながりがあるからこそ、いろいろしてもらえて、感謝もして、それが強さになって、自己肯定や次のチャレンジにつながるんだよと、そういう流れが多少どこかにあると、さらにわかりやすいのかなということを感じました。

それから、同じ基本理念の方針の1のところのですけれども、「学びの場を通して社会参加

が進み、自分らしく生きられるまちを築ける」というのは、すごく大事な点だなと思いました。タウンミーティングでも、「主体性」とか「主権者」という意見も出たようですし、近年、シチズンシップということも教育の中で重視されてきておりますので、「自分らしく生きられるまちを築ける」というこの文言は、すごく大事になってくると思いました。

あとは、方針の第2のところ、「自己と他者への理解が進み、多様性が尊重」されるというところでは、自己理解、他者理解の中に自分と違うものを理解していく力も含まれているということがわかるようになっていて、もっと有機的につながっていくという感じがしました。自己理解、他者理解が、多様性につながっているという流れがよいかなというふうに思いました。

なお、四角の囲みの中は「進めます」「推進します」なのですけれども、「機会をつくっていくよ」という書き方ですと、主体的にみんなが参加できるのだということを推進する表現になるのかなというふうに感じました。

[岡本委員]

「基本理念」「方針」という言葉自体が、区民には馴染みにくいのではないかと思います。例えば「中野のめざす教育」とか、思い切りブレイクダウンしたほうが通じやすいのかなと思いました。

方針第1の囲みの中で、「健やかな身体」とあるのですけれども、ここは「健やかな心身」ではないかと思いました。心と体ですね。

あと、「個性や学び合いを生かした教育を推進します」とありまして、個性と学び合いというのは、並列されるものなのかなというのが引っかかりました。

また、自己理解はわかるのですけれども、他者理解とはどういうことだろうというのは、正直、難しいなと思いました。人のことがわかるというのがどういうことかということもあるけれども、そのプロセスが大事というニュアンスがもうちょっとわかるとよいと思いました。

最近、共感が大事ということがよく言われていると思います。ここでは共感というものも入っていてもいいのかなと思いました。

もう一点、方針第2に「教育にかかわる人材の育成などを進めます」とあります。もちろん学校教育活動の一環として関わってくださる方々には、スキルとか、教育的配慮とか、あとは法的にはいけないこととか、そういったものを一定程度は知っていただく必要があると思うのですけれども、あまりそれをやり過ぎると、多様性というのが薄まるのではな

いかなとも思いました。いろいろな人がその人なりのありようで社会に参加しているのが現実的だと思いますので、大人も、子どもも、いろいろな大人がいるということを知ること、まさに多様性を身をもって学ぶことなのかなと思います。地域のことまで高いレベルを求めるのではないでしょうし、地域の人が自分はこれが楽しくてやっているのだという姿を見せることは、子どもにとって学びにもなるでしょうから、あまり限定しすぎない方がよいと思います。

[村杉委員]

前回から比べまして、大変よくまとめていただいております。

方針1のところでも、「健やかな身体が育つとともに」ということで、健康のことを入れていただいて、とてもよろしいかと思えます。

そして、基本理念のところなのですが、もちろん人と人がつながって、そして、つながりの中で新たな活力が生まれていくというのは、もうここまでは大変よろしいかと思うのですが、つながることのできない子、少数の人たちにも生きやすいまちであってほしいと思いますが、その点に関してはいかがでしょうか。

[区長]

中野区基本構想の中では、そういう人でも遠くから見守りましょうと述べています。必要などときには、そこでつながってケアする社会を目指そうということなのですね。教育大綱の中で意識があまりないのではないのかというご指摘ですね。検討します。

[伊藤委員]

私は、「誰もが」という言葉にあまり人とのつながりが十分でないかもしれないというふうに考えられる方のことも含まれているのではないかなと思っています。つながりには有形無形のものがある、心の中でつながっているというふうなこともありまして、その理念が表現されていて、いろんな人たちのことも包括的に考えているものだと捉えています

もう一点、方針の1のところなのですが、障害のある方の中には、「健やかな心身」「身体」と言われると、自分自身が健やかでないような感じがして、そこで排除されているように思うというふうな方もおられるという話を聞いたりするものですから、「健やかな心身」という目標物があるのではなくて、「健やかに育つ」といった表現がよいのではないかと感じました。

[岡本委員]

私も、自分なりに健やかに生きられる、自分なりに自己肯定感があって、自分なりにチャ

レンジできるということでもいいのだと思うのです。もちろん学校教育なので、一定程度の評価基準があって、そこは越えないといけないということはあるのですが、最終的に、人はそれぞれ自分なりに社会参加していますから、そのためには自分なりに、自分らしく学べるということで、ここにも自分らしくというニュアンスがもう少し入ってもいいのかなと思いました。

[伊藤委員]

「自分らしさを肯定して」といったふうに言えるかもしれません。

[企画部長]

国のほうからも、ウェルビーイングというような考え方も示されておりますし、あるいはクオリティ・オブ・ライフといった言い方もございまして、生活の質ですとか、あるいは教育の質であるとか、それを高めていくことが大事だというふうに思っておりますので、今いただいたご意見も踏まえて整理してまいりたいと思います。

[区長]

自己肯定感とチャレンジする力の文章の中に「学び合う心」というのが出てくるのですが、この言葉には、先ほどのご意見にあったような、つながりの中で、お互いさまだよねというニュアンスが入っていると考えているのですけれども、いかがでしょうか。

[伊藤委員]

「学び合う心」というのは、人を尊重するということが入っていると思いますし、お互いに学び合っていくということも、支え合っていくということもあって、その中に感謝とか成長ということも入ってくるとは思います。サッと読んだときにイメージできるかどうか、人によって、バックグラウンドによって捉え方も違うと思うので、多くの方々が、誤解なく、せっかくこうしていろいろなたくさんの力で考えている中身がよりスムーズに伝わるような、そういった工夫は重ねていくことに意味があるというふうに思います。

[岡本委員]

「学び合い」という言葉が教育界にあるので、学校の先生が読んだときに、学び合う心は「学び合いのことなんだね」と思ってしまいそうだという心配がちょっとあります。

[区長]

教育用語なのですね。

この文章には、「学び合い」が2回出てくるのですよね。「学び合う心」と、「学び合いを生かした」と出てくる。ここはどうするか、もう1回知恵を出してみようと思います。

[岡本委員]

方針第3の囲みの最後なのですが、「施設などの着実な整備や多様な学びの場づくり」とされているのですが、施設のハードと、多様な学びの場づくりは多分ソフトのことも含まれていると思うのですが、ハードだけなのかなという印象があってはもったいないので、ソフト面も場としてつくりますよといったニュアンスがもう少し出れば良いなと思いました。

[田中委員]

方針のところで、「自己肯定感」とか、「自己理解」という表現があるのですが、自己理解というよりは、命も健康も含めて自分を大切にするとするところがもう少しストレートに伝わるところを考えてもいいのかなと思いました。

[伊藤委員]

今のご意見に関連してなのだけでも、確かにセルフコンパッションというような不思議な言葉が今流行っていて、自分自身に自分が共感するというふうなことで、自分自身のことを理解しながら大事するといったことなのですが、ただ、それと同時に、やはり他者ということも一体だと思えるのですよね。自分自身のことがわかるのは、他者の存在がないと自分自身はわからないですし、他者を大事にしないと自分も大事にできないわけなので、自己理解と他者理解、自分を大切に、他者を大事にするというのが、どちらかが優先されるということではなく、バランスよく、わかりやすく伝わるというふうな感じでした。

[教育長]

今聞いておまして、どういう言葉で、どういう表現をしていくか、それぞれの捉え方を全部入れるというのは非常に難しいことかなと思っています。表現は最終的にはお任せするしかありません。区長からは、子ども向けにも作っていきたいと聞いていますから、せっかくここまで絞り込めたものをまた再考するのもなかなか難しいと思います。

[区長]

ここまで積み重ねてきたものを、また中学生にも理解されるような表現に変換するのは難しいですね。

[岡本委員]

わかりやすい注釈をつけるのも1つではないですか。「超スマート社会 (Society5.0)」とありますけれども、区民向けであるのであれば、やはり注釈は必要ではないかと思います。

[企画部長]

例えばやさしいものをつくるのか、注釈というか、解説版をつくるのかということまで、まだ議論はされていないのですね。どういう仕立てがいいかも含めて、検討させていただきます。

[教育長]

逆に、それぞれの立場で、それぞれに読み取るということも大事なのかなと私は思っていて、あまり注釈で絞ってしまうのは、絞り切れませんし、伝え切れないのではないかとも思います。

[企画部長]

専門用語として確立した意味のある言葉もあると思いますので、検討したいと思います。

[伊藤委員]

例えば、区長が中学生あるいは小学生に説明するとしたら、こういうことなんだよというふうに、1回やさしい言葉で語り直し、もう1回普通の言葉に戻したりすると、本質を捉えた理解しやすいもの、汎用性の高いものになるのかなというふうに思ったりしました。

[総務部長]

様々ご意見をいただきまして、ありがとうございます。時間もまいりましたので、最後に区長から発言をお願いいたします。

[区長]

今日はいろいろな意見をいただきましたが、大体コンセンサスは得られたかなというふうに思いますので、本当にありがとうございます。言葉をどうするかということと、小学生や中学生にどう伝えていくのかといったことも含めて、最後、我々もう一度頑張って考えてみたいと思います。

[総務部長]

それでは、今後の進め方になりますけれども、本日の協議を踏まえて改定素案を決定いたしまして、意見交換会に付してまいりたいと考えております。

教育委員の皆様には、意見交換会の意見を踏まえ、教育大綱の改定案を取りまとめた段階で、次回会議を開催いたしまして、ご協議いただきたいというように考えているところでございます。

以上をもちまして、本日の中野区総合教育会議を閉会いたします。皆様、ありがとうございます。

【午前 11 時 57 分閉会】